

4年「思いやりのかたち」

展開例

- 主題**…先生の願いや意図が明確になるよう1文で表します
  - 導入**…導入の後、どこかで、導入に関わる問いや話を入れます。そうすることで授業に一貫性が出ます
  - 展開前段**=立場発問…ある人の立場を取得して共感する学び
  - つなぎ発問①**…教材の学びから、児童生徒の実感に即した見方や考え方に広げ、展開後段の問いを多角的な視野から考えることができるようにする
  - 展開後段**=主題発問…道徳的価値について考えを深める学び  
道徳的価値の「捉え」「よさ」「大切さ」「態度」「意欲」を考えさせる
  - つなぎ発問②**…展開後段で出された道徳的価値への考えを具体化したり、生活とのつながりを実感できたりする問いや話を入れ、終末の振り返りの手がかりにする
  - 終末**=主体発問…自己の生き方について考える学び  
学習から学んだことを鏡として、これまでの自分を見つめて、自分のよさを見つけたり、よりよい自分の姿を想像したりする観点をもって振り返る
- 振り返り…ウェルビーイングの視点を取り入れた観点を示して振り返らせる

「皆さんの考え方や行動は、もっとよくなります。そのために振り返りましょう」

まず、今日の学習から、学んだこと・分かったことを書きましょう

そして、次のことについて書きましょう

- ・これまでできていること、満足していること（よさ・自己肯定感）
- ・もっとやってみたいこと、もっとできそうなこと（ポジティブ・目的意識）
- ・誰かといっしょにやりたいこと、誰かといっしょならもっとできそうなこと（他者との協働）
- ・これから、なりたい自分（自己実現への期待）

※この中から、先生がいくつか指定して書かせる、または、子どもが自分で選んで書かせます

先生の、児童生徒に一番考えさせたい願いや意図（主題）に基づいて、よいように授業をおつくりください

主 題	思いやりは、どうして かたちになければならないの	思いやりをかたちにしよう	思いやりをかたちにするために 心を大きくしよう
導 入	今日の学習は、第27回「思いやりのかたち」です。「20のとびら」の6番「相手を思いやり、進んで親切にする」です。「どうとくみちあんない」では、○△?のどれを付けていますか		
展 開 前 段	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わたし」は、目の不自由な人をどんな気持ちで見えていたのでしょうか</li> <li>○「わたし」は、どんな思いで案内していたのでしょうか</li> <li>○自分のことを覚えてくれていて、「わたし」は、どんな気持ちになったでしょう</li> </ul>		
つ な ぎ 発 問 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三宅さんと「わたし」は、どんな思いを形にしたのでしょうか</li> <li>○思いやりを形にするとは、どういうことでしょうか</li> </ul>		

展 開 後 段	思いやりを形にすることは、どうして大切なのでしょう	思いやりを形にするのは、他にどんなことがあるでしょう	どんな思いや気持ちがあれば、思いやりを形にすることができるのでしょうか
つ な ぎ 発 問 ②	思いやりを形にする前に大切なことは何でしょう。それは、相手を思いやることですね。相手のことをしっかりと思いやることで、よい形になって表れてくるでしょう。思いやりの形を見つけたら、先生に教えてくださいね。楽しみにしています		
振り返り			

※「○△？」は、第1回「道徳が始まるよ」で「道徳みちあんない」に書き込んだものです